

交流

発行日:平成20年10月1日 第2号

福島日中文化交流会 事務連絡先

〒960-0613 福島県伊達市保原町字内町21-5
Tel/Fax 024-575-2071 携帯:090-2360-3275
Email:mayumi_mihojp@yahoo.co.jp

ともに日中文化交流を!

独唱会の開演となり、中国語による「愛的賛歌」を皮切りに「宵待草」など7曲を熱唱、会場を魅了しました。

平成20年度定期総会開催

あらたな活動に向かって前進

福島日中文化交流会の平成20年度定期総会は、5月25日午後5時30分より古閑裕而記念館で開かれました。今回は昨年10月発足後最初の通常総会であり、大須賀ミチ子幹事の司会のもと、まず顧問の高橋重夫さんがあいさつ、第一歩を踏み出した会の活動の評価と今後の期待について話され続いて岩間真弓代表幹事が立ち、会員はじめ関係先等多くの方の協力があって今日の日を迎えることが出来たと、感謝のことばを述べられました。



このあと当日の出席者25人には食事が用意され、佐藤 満幹事のハーモニカ吹奏、一條美意さん、菅野裕子さん、矢部良子幹事による太極拳、渡部千佳子幹事の花架拳が演じられて、会場の雰囲気盛り上げました。

第1回通常総会は委任状17人を含む42人が出席、岩間代表幹事が議長を務め、議事審議に当たっては、事務局次長の長谷川孝幹事が、武漢大学への中国語学習団など平成19年度活動報告と会計決算報告を、また中国語会話教室をはじめ上野恵司先生講演会など平成20年度活動計画と予算案を説明承認されました。

一旦休憩に入り、多才な高橋重夫顧問の一面をのぞかせる油絵が披露された後、歌手高田吉子さんの



上野恵司先生講演会

無料開催が大成功

“コラッセふくしま”

福島日中文化交流会は今年重点事業の一つとして、上野恵司先生をお迎えした中国語学習講演会を福島県、福島市、NHK福島放送局、福島民報社、福島民友新聞社の後援の下、7月6日 コラッセふくしまで一般にも無料で開催し、大成功を収めました。

上野先生はご承知のとおり、共立女子大教授、日本中国語検定協会理事長の現職のほか、長年 NHKラジオ講座講師を担当され、中国の言語と文化に関する著書も多数という日本最高峰の学者で、一般の中国語学習者にとってはちょっと近づきたい“雲上人”です。



この超多忙の先生が3年ぶり2度目の講演をしてくださったのは、何といても中国語検定試験を通じた岩間代表幹事と先生のご縁からでした。福島に熱心な学習者が多いと聞いた先生、「それならば…」と今回も破格のご厚意で、ノーギャラでお出でくださいました。そうでもなければ、発足日浅いわが会の財力でお招きできるような講師ではありません。

開催までの準備は大変でしたが、幹事みなさんに手分けして頑張ってくださいました。是非にと上野先生にお願いした講演会ですから、何が何でも成功させねばなりません。関係方面への後援願い、新聞社へのPR、何度も何度も幹事会を開き、岩間さんからは得意のメールで各幹事宛にダメ押しの連絡が次々と飛びました。

役割分担も微に入り細にわたり、会場づくり、手

製の吊り看板、受付、アンケート準備、接待用の道具類、お土産、上野先生の市内ご案内などなど、費用をかけられぬ分を智恵と真心で補う工夫です。中国のことわざに「八仙過海、各顯神通」というのがあります。八人の仙人が各人それぞれの得意技を發揮して、荒海を無事乗り切る——というのですが、今回の各幹事さんの活躍はまさにそれでした。



さていよいよ講演会当日、梅雨の晴れ間は嬉しいのですが、最高気温34度と蒸し暑く、この日は鹿児島島の34.6度について日本第2位の猛暑日です。客の出足が心配でしたが、コラッセ福島5階の研修室が60余名の聴講者で埋まった時は正直ほっとしました。

上野先生の講演は、ご自分の中国語を学んだ道を語ることから始まりました。大学の社会学専攻を卒業してからもう一度漢文学科に再入学、中国の本を読む必要から中国語学習が始まり、日中学院を興した倉石武四郎東大名誉教授ら数々の著名な指導者と出会い、時が経って気がついたら「中国語教師」になっていた…というご自分を飾らないもの静かな語り口が、先生の謙虚なお人柄を忍ばせませす。



先生のお話からいくつかのポイントを挙げると…

- ※ 中国語と日本語の違い…日本語の「時計」は時間を測るという機能。中国語の「表」は身につけるもの、「鐘」は柱にかける、または置くという形態、外観による区別。
- ※ 中国語の動詞「穿」「租」「借」…それぞれある種の動作を表す。関連する他の文字と組み合わせると熟語を形成する。たとえば中国語「穿」の動作に対し日本語では「着る」「穿く」「履く」となる。
- ※ 言葉を学ぶことを通して、民族文化の違いを理

解する。それが外国語学習の目的であるべきだ。
 会話が上手とだけではさびしい。

※ 学習した中国語が、自分の日本語より上手になることは絶対ない。だからこそ日本語を大事にしなくてはならない。

こうして2時間たっぷり、学習後の爽やかな感謝の拍手と共に午後4時過ぎ閉会。引き続き近くのレストラン・シェルドラゴンで先生を囲む有志による懇親会を開きました。講演の余韻にひかれてか閉会後の申し込みが増え、慌てて座席を増やすほど、日ごろの学習を話題に楽しく盛り上がりました。先生は始終ニコニコ、物静かながら軽い冗談も交えくつろいで過ごされ、午後7時過ぎの新幹線で帰京されました。

この講演会は参加者のアンケート結果（下表参照）を見ても、ほぼ100%（1名だけ「つまらなかった」）の方に役立ち、満足して頂けたようです。発足日浅い福島日中文化交流会の鮮やかな対外ホームランとってよいでしょう。一丸となって成功に導いた役員幹事のみなさん、会員のみなさん、本当にご苦労さまでした。（高橋 重夫）

四川省大地震への義援金について

四川省での大地震のニュースを見て胸が詰まる思いがいたしました。学校校舎の倒壊、行方不明の子どもたち、今も尚瓦礫の下に埋まっている人々、家族を必死に探そうとしている人たち、亡くなった子どもの写真を抱き悲嘆にくれている母親、食べ物も無い、水も無い、つらい人々のことを思うといってもたってもいられませんでした。



屋根が崩れ落ちた学校

——日本経済新聞より転載

私達は、今回遠い日本から何か少しでも力になりたいと義援金を集めることにし、義援金の確かなルートを持っている2社の会社に託すことにいたしました。

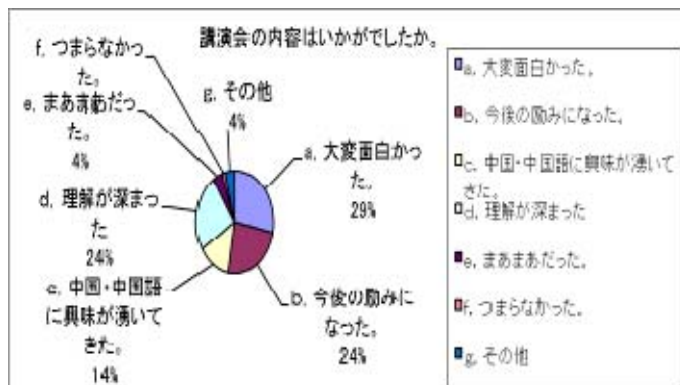
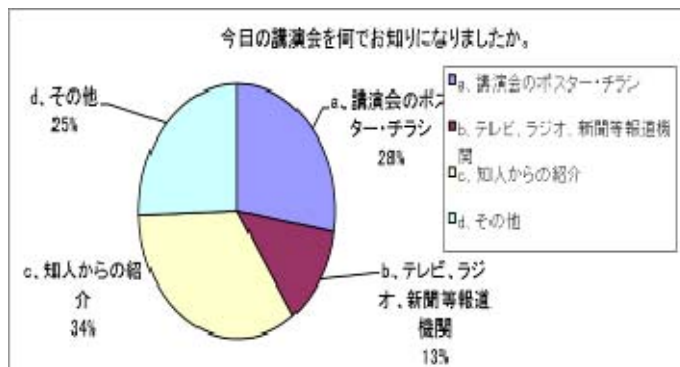
◎民報厚生文化事業団へ寄付 36,052円

今回、伊達市霊山町カンノトレーディングが当福島日中文化交流会へ寄付 23,845円

◎福島民友愛の事業団へ寄付 35,000円

民報厚生文化事業団・福島民友愛の事業団、また、伊達市霊山町カンノトレーディングが当福島日中文化交流会へ寄託した金額を合わせて**94,897円**を寄付いたしました。

みなさまのご支援とご協力誠に感謝いたします。早く四川省が復興できますようにと心からお祈り申し上げます。（岩間 真弓）



（アンケート集計 斎藤 佐久男）



石川達三と太平洋戦争

『「生きている兵隊」と石川達三』は前号で終了したが、先日古い雑誌を整理していて、偶然にも石川達三の太平洋戦争に対する思いを知ることができた。それは戦争突入40年目に当たる昭和56年（1981年）、「文芸春秋」12月号のアンケート特集に応えたもので、戦争についての話は「もう沢山」とする石川の心情が窺われて興味深かった。

アンケートの内容は、大まかに『①昭和16年12月8日、あなたはどこで何をしていたか。その時の想いは？ ②終戦の昭和20年8月15日、あなたはどこで何をしていたか。その時の想いは？ ③この戦争はあなたにとって何だったか？』の3点で、登場する人数は40年目に合わせてか各界から総数40人、石原慎太郎（当時衆議院議員）や森繁久弥の名もある。石川がアンケートに寄せた全文は次のとおり。

- ① 自宅に居た。もしかしたら勝てるかも知れないという幻想を持った。
- ② 自宅に居た。敗けて良かったと思った。それから先のことは解らないが、アメリカもあまり無茶な事はしないだろうと思った。
- ③ 国というもの、政府というものが、まことに詰らないものだと思った。その所感は現在まで続いている。

掲載は到着順により石川は3番目で早く、文章の長さに到っては極端に短い。その短い部類に入る漫画家水木しげるの半分もなく、多くの人の五分の一

程の長さである。「戦争のことにはあまり触れたくない。さっさと切り上げよう」とする彼の気持ちがありありだ。

終戦直前の新聞小説「成瀬南平の行状」は、家宅警視庁に連行の揚句僅か15回で打ち切りになったというし、石川の年譜には、＜言論弾圧の辛さは骨身にこたへてみた＞とあるから、思い出すさえおぞましく、早く逃れたい気持ちだったのであろう。

アンケートの①については、「ニュースに昂奮し、大本営発表のラジオに胸を躍らせた(元共産党書記局長不破哲三、小学6年)」や、「暗雲が一挙に吹き払われた感じで、ハワイの大戦果に涙した(作家阿川弘之、大學2年)」など興奮したとする人が多く、その中で石川(当時36歳)は幻想と断わりながら「勝てるかも知れない」と思ったと応えている。

同じ作家の丹羽文雄は、彼を「いい加減に生きることが出来ない人間」と称しており、石川とすれば、その時の気持ちを忠実に述べたまでのことであろう。その戦争に敗けたのである。



石川にとっては③の応えくまことに詰まらない国、政府>との思いに繋がるのは、当然の成り行きであった。この敗戦を不破哲三は「価値観の変革そのものだった」として政治家を志し、石川も詰まらない国の改革を夢見てか、昭和21年4月の帝国議会最後の衆議院議員総選挙に立候補するも落選した。再び執筆活動に戻ったのは昭和22年である。もし石川が政治家になっていたら如何なっただろう。

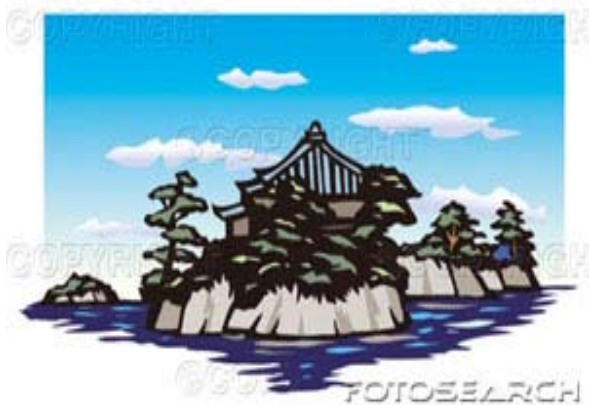
アンケート特集と同じ時期の「小説新潮」12月号で彼は「私の作品は、その裏に私の嘆きがあり憤りがあり、また私の闘いが有る」と述べているが、これは作家ゆえに為し得たことで、もし政治家になって居たら狐や狸の群がる中で埋没し、こうは行かなかった筈だ。司馬遼太郎と同じくこの国が、昭和という時代が、作家石川達三を必要としたのである。

通訳ボランティアに参加して

さる8月23、24日、福島青年会議所創立45周年記念式典に招かれた台湾南投国際青年商会の方々の通訳に、10名のボランティアの一人として参加しました。主催者側の「通訳をしつつ自由に交流してください」との言葉もあり、多少気楽な気持ちもありましたが、私にとって初めての通訳ということもあり、やはり不安もありました。



初日は記念式典という改まった場で、来賓挨拶などの内容は、かな〜り大ざっぱにしか伝えることができず、自分の勉強不足を痛感させられました。続く祝賀会、交流会では、某歌手のコンサートや怪しい気功師による催眠術ショー等で場の雰囲気や和らぎ、南投JCの方とも自然に交流することができました。2日目は松島で食事、名取でショッピング、空港まで見送りという日程でした。台湾の方が喜ぶお土産を選ぶというのも、なかなか難しかったです。



この2日間で、福島JCと南投JCの皆さんの交流のお手伝いできたばかりでなく、初めて通訳をさせていただき私にとっては得がたい経験となりました。

また、通訳という仕事に興味がわくと同時に、その難しさをも実感させられました。この経験を今後の中国語学習に役立てていきたいと思えます。そして、

また機会があったら通訳ボランティアに参加したいです。
(高橋 紀子)

北京オリンピックによせて

平和の祭典・北京オリンピックは、8月24日、成功裏に幕を閉じました。壮大な開会式から数々の記録と感動を生んだ各競技、そして華やかな閉会式と北京オリンピックの成功は、中国の人々に大きな自信と、世界を見つめる目を与え、それから世界の人々へ中国を見る目を大きく開かせてくれました。



スポーツの国際化は、多くの指導者・選手に国境を越えて活躍の場を与えてくれています。北京オリンピックにおいても、バレーボール・シンクロナイズスイング等多くの指導者が国境を越えてチームを率い北京オリンピックに集い、また卓球などは中国の国内大会の様相を呈していました。それでも多くの人々は、自国のチームとして応援し、他国に移った指導者・選手にも理解を示しました。

『愛』には色々な形がありますが、夫婦愛・親子愛・兄弟愛・師弟愛・人類愛……………、それらは全て「私に〜に対する愛」となります。つまり自分と強い結びつきを意識した感情が『愛』と言えます。自分と関わりがある人だと意識、若しくは認識出来れば愛する事は出来ます。国境・国籍・人種・民族を超えて自国のチームにやってきた指導者・選手を自国のチームの一員として応援できるように。



---女子クレール・トラップ決勝 4位の中山由起枝
(左)は娘の芽生ちゃんと キスを交わす---

オリンピック・高校野球はその大会中、自分の国・県への意識・認識に関わり無く、自国のチーム・自分の県のチームを応援させます。そして試合が終われば、対戦相手のチームにも同じぐらいの親近感と関わりを感じさせます。スポーツは選手も観客も試合の最中は意識を自分のチーム集中させ、試合が終わればその意識を一気に外へ向けさせます。それがスポーツの力なのでしょう。

アマチュアスポーツの祭典だったオリンピックも選手のプロ化、式典・試合の興行化等問題も指摘されていますが、地球上に暮らす全ての人々と自分には関わりがあること認識させ、全ての人々の心をつなげる事が出来る事を見せてくれる平和の祭典・オリンピックの意義は変わる事が無いと信じます。

(斎藤 佐久男)

中秋節交流会

日中文化交流会「中秋節交流会」の夕

楽しかった中国の友人たちのお国なまりの相声

福島日中文化交流会主催の「中秋節交流会」が、十五夜より三日はやい9月11日(木)午後6時半より福島市中央学習センターで開催され、交流会会員と福島大学の留学生や、現在、福島に在住の多数の中国の友人が多数参加し、にぎやかに日中両国の交流の輪を繰りひろげました。



「中秋節交流会」の多彩な演出を楽しませていただいた中で、今回、圧巻だったのは、何と云って中国各省出身の友人たちが「ふるさとお国なまり」で演じる相声(中国の掛けあい漫才)もどきの会話・寸劇でした。広東省や上海市、湖南省、あるいは遼寧省出身など各省各市から福島に来られている友人たちがペアで、それぞれのお国言葉で演じるのですから、私にはどんな話かさっぱりわかりません。交流会代表の岩間先生にもわからないようです。



ところが、本日の出席者の一人、加藤一朗さんがこの寸劇をすべて同時通訳してくれたのです。広東語も上海語も、福建語の寸劇もすべて見事に同時通訳し、しかも内容もほぼ完璧。これには本当に脱帽でした。

加藤さんは、中国在住10数年のベテラン・ビジネスマン、中国の各地を商談で訪れている内に、自然に理解できるようになったそうです。今日の会の冒頭に全員で合唱した『月亮代表我的心』は、「中国で今一番愛唱されている歌でしょう」という加藤さん。「1千回ぐらいいはもう歌ったでしょう」と。まさに彼は『中国語方言の達人』でした。



本日のメインディッシュは、二本松市の渡辺さんが栽培された“哈密瓜(ハミウリ)”，最高の美味でした。

また福島在住の華麗な美女モデルたちによる中国少数民族のファッション・ショー。



さらに円熟のベテラン演技者たちによる太極拳や花架拳のモデル演技、



中国語の言葉遊びゲーム等々、いつまでも名残り尽きない「中秋節交流会」でした。



(猪股宗男)

<参加された中国の皆さんの声>

参加された李鵬運さんから、中国人の方々の感想を纏めて貰いました。

今天感觉很特别，过了一个特别的中秋佳节，当然要特别感谢举办者，感谢大家，在这个活动中，能够体味到家的感觉，温馨无处不在，谢谢！希望文化交流会越办越好。

(阎传军, Wistron 职员)

とても楽しかったです。皆さんとの交流時間ももうすこし長く設定してもいいのでは、ゲームの時間は参加者全員で参加するという形式でしたらもっと楽しくできたかもしれません。

(福大教育大学院, 蔡小 xu)

異国他郷にいながら家族と佳節を過ごしている感じでとても楽しい交流会でした。どうもありがとうございました。

(福大行政社会学部, 王叡)

「どよの広場」に参加して

9月13日、福島市中央学習センター2階ホールに於いて「どよの広場」が開催されました。



福島日中文化交流会では、「中国の少数民族の紹介・衣装展示」等を通し、交流会の活動を紹介しました。当日、会場には、大勢の子どもやお母さんが訪れました。展示されている小物や衣装を興味深く見て歩き、特に華やかな民族衣装には、女の子の試着希望も多く、スタッフも着替えを汗だくで手伝う場面もあったり、



また、着替えをした女の子達は、「お姫様みたい！」と自分の姿にうっとりする子もいたり、大騒ぎをしながら、お母さんに写真をとってもらったりと会場を訪れた子どもたちとお母さんたちは、楽しい素敵な時間を過ごされたようでした。

(大須賀ミチ子)

《会員情報》

渡部千佳子さん

「館展」受賞おめでとう

今回会員で幹事の渡部千佳子さんの作品が、「館展」で知られる第35回日本書道美術館展で受賞されましたことは、会としましては名誉なこと、心からお喜び申し上げます。

かねがね書道家として中国に対し熱い情熱を注いで来られた千佳子さんが、このたび李白の詩「送友人」の書で日本教育書道連盟会長賞を受けられましたことは誠に意義深く、会としまして更に一層のご活躍をお祈り申し上げます。(岩間 真弓)



8月10日上京の折、受賞作品を拝見してまいりました。会場の美術館は白亜のビルで、東上線「ときわ台」駅に近く、白い瀟洒なフェンスの中、庭木に囲まれるように建っておりました。

入場者は、開館の10時直後でしたので10人程でしたが、4階の会場に入ると一作品の前で3人の方が小声で話し合いながら作品を見つめ、なかなか動こうとしません。作者名を見ると何と千佳子さんの作品じゃないですか。

私は福島から来られた方々に違いないと、その様子をカメラに収めるや(それが掲載の写真です)、その人たちに近づき尋ねました。

「千佳子さんのお知り合いの方ですか?」「いいえ、違います」いやーもう、ぼつが悪いやら、恥ずかしいやら・・・その後も千佳子さんの書を書き取っているご婦人も居て、関心を集めて居りました。



作品の李白の詩には酒は出てきませんが「青山北郭に横たわり」で始まり以下「此の地ひとたび別れを為し」と、李白の惜別の気持ちが伝わって来る詩ですし、偉そうなことを言うようですが、例えば、その「別」の字と、前の句の「意」を含む「落日故人の情」の独特な筆まわしは、全体的にバランスが取れて、長年書に打ち込んで来られた人のみが到達し得る技の極致と感じた次第でした。兎に角素晴らしい書で、身近な人の作品だけに豊かな気持ちになって美術館を後にしました。(佐藤 満)

小野徳郎さん逝く

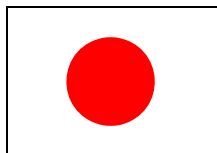
中国語会話教室で10年以上前から一緒に学習してきた小野徳郎さんが、3月16日脳出血のため亡くなりました。76歳でした。

長らくつとめた小中学校の先生、大木戸小校長などの経歴を全く感じさせない磊落なお人柄で、中国語文法には特に研究熱心、同学たちの信望も厚い方でしたのに本当に残念です。

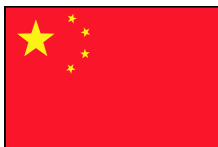
おじいちゃんを偲ぶお孫さんの弔辞に、毎日中文で日記をつけていたとありました。「活到老,学到老」を貫いた小野さんのご冥福を祈りましょう。

(高橋 重夫)





お知らせ



いつも福島日中文化交流会へのご支持とご協力感謝申し上げます。

さて、10月から後期が始まります。大いに活動して参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

会費納入のお願い

平成20年度会費の納入をよろしくお願いいたします。

会費納入について

- (1) 郵便局振込みの場合(お近くの郵便局で)
02220-7-105525 福島日中文化交流会
- (2) 銀行振り込みの場合
振込先:普通預金 東邦銀行保原支店
口座番号:733649
名義人:福島日中文化交流会
代表幹事 岩間真弓
住所:〒960-0613
伊達市保原町字内町 21-5
- (3) 会費について
法人会員 10,000円
個人会員 3,000円

◎第66回中国語検定試験開催

日時:平成20年11月23日(日)

場所:福島テルサ

内容:準4級・4級・3級・2級・準1級・1級



「当面の行事のお知らせ」

1 花架拳教室

日時:毎月第二日曜日(都合により変更もある)

場所:福島市中央学習センター

内容:護身術である花架拳を演舞する

費用:後期 10月～3月(4,800円)

講師:日本花架拳学会 飯田加寿子



中国語会話教室からお知らせ

◎中国語会話教室第33期募集!

日時:平成20年10月～平成21年3月

(時間は各級による)

場所:福島市中央学習センター

内容:入門・初級・中級

費用:一ヶ月 3,000円×6ヶ月=18,000円

講師:李淑薇・岩間真弓

※一クラス分の授業料で3クラス受講可能



你好!
最近忙吗?

2 健康マージャン教室

日時:毎月第二日曜日(都合により変更もある)

場所:福島市中央学習センター

費用:1年分 6,000円(500円×入会月から)

内容:吸わない・飲まない・賭けない健康なマージャンを楽しく行なう



3 日中文化交流サロン

日時:毎月第2日曜日 10:00~11:30
(都合により変更があります)
場所:福島市中央学習センター
内容:日本語と中国語の相互学習
会費:無料
持物:○自分の学びたいものを持参する
○お茶を飲む時のマイカップ
募集:20名程度(年齢6歳~)



4 中国語学習団

日時:平成20年11月1日(土)~8日(土)
場所:陝西師範大学国際漢学院(研修・宿泊先)
〒710062 陝西省西安市長安南路199号
内容:漢語口語、活動(小旅行 など)
費用:143,000円(※会員割引有り、航空券、
送迎バス、部屋代、学費、市内遊覧
費、手数料 含む)



中国語学習団に

参加を決めた私

11月1日出発の標記学習団に、私は2年6ヶ月ぶりに参加することを決意しました。大仰な——と思われるかも知れませんが、中国語会話が我不 wo bu に加え耳が听不見 ting bu jian の昭和一桁生れとしては、それなりの決意を要したのです。

その第一は今回の学習先が西安ということでした。古くは長安と言って、その昔阿倍仲麻呂や空海が訪れた都ですし、平成16年にはこの地から日本人遣唐留学生、井真成の墓誌が発見

されて大変な話題になりました。私はその墓誌(レプリカ)が上野の国立博物館に展示されたとき見に行きましたが、彼の地での古人に想いを馳せ涙してしまいました。その西安が学習先ですから、これは縁というものでしょう。

次に決意を促したものは、1974年に発見された「秦始皇兵馬俑」が見られるということです。8000体もの壮大精巧な地下軍団を目の当たりにした時、私はどんな感動を覚えることか。今からワクワクして居ります。

加えて費用が安く、同行者に今回2回以上という方が大勢居られ、心強いことですね。

ただ私が気になるのは、受講クラスを決める面接です。前回の上海外国語大学ときは係りの女性から日本語で「中国語は出来ますか?」と聞かれ、「男はつらいよ」のオイチャンと西部劇俳優のジョン・ウエンを頭に入れて必死で覚えた「我不会講中文 ウオ ブウ ホイチャン ジョーンウエン 中国語はダメです」と答えたら「話せる」と思われたのか、最下位ではなく一つ上のクラスに入れられたのでした。それで今度はズバリ日本語で行くか目下思案中です。

(佐藤 満)

5 その他 餃子作りなど

その他

◎記事のお願い

福島日中文化交流会の会報『交流』をお読みいただきましてありがとうございます。是非、記事やご感想などをお寄せいただきましたら幸いに存じます。

《編集後記》

先ず皆様から記事、写真を頂き会報2号を発行させて頂きましたことに感謝申し上げます。

今回は会員情報を掲載させて頂きました。会報は会員皆様からホットな情報、ご意見、等により皆様の篤き日中文化交流の思いを広く会員、会員外の方に知って頂き、当交流会がより発展できるように編集努力致します。今後とも皆様からの記事、写真、情報等を宜しくお願い致します。

(編集担当 佐藤満、加藤一朗)